

訂正版:赤字で追記しております。

チャンネルボックス着脱実績 (記載例: 柏崎刈羽原子力発電所5号機)

燃料タイプ	製造メーカー (取替回数)	新燃料へのCB装着実績 <u>点検状況 (A)</u>								新燃料時以外の水中CB脱着実績 <u>点検状況 (Aの内数)</u>						
		使用 CB	取付 方法	取付時期 ¹	取付企業	原子炉 装荷体数	SFP 貯蔵体数	NFV 貯蔵体数	点検済体数 ³	WR曲がりを 確認した体数	取付時期 ¹	取付企業	原子炉 装荷体数 ²	SFP 貯蔵体数 ²	点検済体数 ³	WR曲がりを 確認した体数
8×8BJ	JNF (初装荷, 第1回)	新品 再使用	気中 水中	対策前 (H8.9)	日立	0体	4体	0体	1体	0体	対策前 (H10.1~H10.2)	日立	0体	4体	1体	0体
		新品	気中	-	-	0体	602体	0体	0体	0体	対策前 (H3.5~H10.1)	日立	0体	31体	0体	0体
	NFI (第1回)	新品	気中	-	-	0体	48体	0体	0体	0体	対策後 (H12.10~H17.8)	日立	0体	40体	0体	0体
				-	-	0体	48体	0体	0体	0体	0体	対策前 (H4.9~H10.1)	日立	0体	10体	0体
高燃焼度 8×8	JNF (第2回~第7回)	再使用	水中	対策前 (H5.9~H9.6)	日立	0体	249体	0体	23体	18体	対策後 (H11.5~H17.8)	日立	0体	20体	1体	1体 ⁸
				対策後 (H10.11)	日立	0体	68体	0体	5体	0体	0体	対策後 (H14.1~H15.3)	日立	0体	18体	3体
		新品	気中	-	-	0体	463体	0体	16体	0体	対策前 (H7.5~H10.2)	日立	0体	18体	0体	0体
	NFI (第5回, 第7回)	再使用	水中	対策後 (H10.11)	NFI	0体	32体	0体	7体	0体	対策後 (H11.5~H19.2)	日立	0体	19体 ⁵	6体	0体
				-	-	0体	32体	0体	7体	0体	0体	対策前 (H12.10~H17.9)	日立	0体	9体 ⁶	2体
		新品	気中	-	-	0体	224体	0体	5体	0体	対策前 (H10.2)	日立	0体	2体	0体	0体
9×9 (A型)	JNF,GNF-J (第8回~第13回)	新品	気中	-	-	764体 ⁷	244体	20体	8体	0体	対策後 (H14.1~H24.4)	日立	4体	17体	8体	0体
				-	-	0体	244体	20体	8体	0体	0体	対策後 (H12.10~H19.2)	日立	0体	15体	2体

- 平成10年のスペースサズれ事象の対策として、水中でのCB取り付け作業方法を見直ししており、その対策前か対策後かを記載。
- SFP貯蔵体数及び原子炉装荷体数のうち、新燃料時以外のCB脱着実績(外観点検など)をもつ燃料の体数を記載。(同一燃料で複数回実績がある場合も1体とカウント)
- CB上部(クリップ部)一部欠損およびウォータ・ロッド曲がりの調査に伴う点検体数。
- 3の点検において実施したCB脱着分は含まない。
- うち2体はJNF、GNF-JにおいてもCB脱着実績あり。
- うち2体はNFIにおいてもCB脱着実績あり。
- うち10体は気中での取付け後、新燃料のまま水中でのCB脱着実績あり。(対策後(H20.3)、取付企業:日立)
- 新燃料時に再使用CBを水中で対策前に取り付けた燃料集合体18体にWR曲がりが確認され、その内1体は新燃料時以外にも脱着実績あり。

用語	
WR	ウォータ・ロッド
CB	チャンネルボックス
SFP	使用済燃料プール
NFV	新燃料貯蔵庫
8×8BJ	新型8×8ジルコニウムライナ燃料
高燃焼度8×8	高燃焼度8×8燃料
9×9(A型)	9×9燃料(A型)
JNF,GNF-J	現グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン
NFI	原子燃料工業
日立	日立製作所または日立GEニュークリア・エナジー